



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 396
March
2026

トピックス

関係機関との協力推進

▶ JICA課題別研修「持続性と強靱性確保のための防災（中央アジア・コーカサス）」

▶ 第10回GLIDE運営委員会（SC）会合開催

ADRC客員研究員レポート

▶ オーン・ソファラ（カンボジア）

▶ メイ・ヌエ・キョー・ザウ（ミャンマー）

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
<https://www.adrc.asia>

© ADRC 2026

●関係機関との協力推進

JICA課題別研修「持続性と強靱性確保のための防災（中央アジア・コーカサス）」

アジア防災センター（ADRC）は、2025年12月10日から2026年2月10日にかけて、JICA課題別研修「持続性と強靱性確保のための防災（中央アジア・コーカサス）」コースをJICA関西との協力により実施しました。アルメニア、キルギス、モンゴル、タジキスタン、ウズベキスタンの5か国から8名の防災担当行政官が参加し、災害対策の推進に向けた地方防災計画策定・実践の手法について学びました。

研修は遠隔研修と来日研修によるハイブリッド形式で行われました。約1か月の来日研修では、兵庫県、大阪府、奈良県、東京都での防災関連機関の訪問や講義、栃木県日光での砂防事業の現場視察などを通じて、日本の災害対策を学びました。また、研修員相互のディスカッションでは、この地域での国境を超えた災害への対策について検討しました。研修員のみなさんは協力し合って研修に参加し、最終日には、研修で学んだことを踏まえて各国の地方防災計画案とアクションプランを発表しました。

本研修実施にあたり、ご協力いただいた各関係機関のご担当者、講師の皆様は厚く御礼申し上げます。



日光の砂防事業の視察（栃木県）

第10回GLIDE運営委員会（SC）会合開催

ADRCは2001年以来、世界の災害情報の連携を促進するため、多様な防災ステークホルダーとのパートナーシップのもと、GLIDE（グローバル災害識別番号）イニシアチブを推進してきました。このミッションをさらに進展させるため、最近2つの重要な会議が開催されました。

第10回GLIDE運営委員会（SC）会合

2026年1月14日、第10回運営委員会会合がオンラインで開催されまし

続き

た。本会議には、ADRC、CRED（ルーベンカトリック大学災害疫学研究所）、EC/JRC（欧州委員会共同研究センター）、東北大学、UNDP（国連開発計画）、UNDRR（国連防災機関）、UNOCHA（国連人道問題調整事務所）、UNU-EHS（国連大学環境・人間の安全保障研究所）から11名のメンバーが出席しました。

UNDRRより、UNDPおよびWMO（世界気象機関）との協力により開発された新しい災害損失・被害トラッキングシステム「DELTA Resilience」の開始について報告がありました。参加者は、新ツールの開発状況や、Hazard Information Profiles（HIP：ハザードインフォメーションプロフィール）をGLIDEシステムへ統合する可能性について議論を行いました。

会合では、世界の防災の取り組みをより良く支援するため、GLIDEの活用をさらに強化していくことで合意しました。

新製品開発小委員会（Sub-Committee）

第10回運営委員会に先立ち、2025年10月14日にHIPsの採用に特化した小委員会会合がオンラインで開催されました。GLIDEメンバーの関心は非常に高く、各機関から計18名が参加しました。本会合では、HIPsをGLIDEに導入することのメリットと課題について意見交換が行われ、今後の運営委員会において詳細な技術的議論を継続していくことで合意しました。

これらの会議で再確認された通り、GLIDEは、世界中の防災ステークホルダー間でのシームレスな情報連携を促進するため、引き続き協力して取り組んでまいります。

●ADRC客員研究員レポート

オーン・ソファラ（カンボジア）

私はオーン・ソファラと申します。ファラとも呼ばれています。カンボジア王国ポーサット州カンディエン郡カンディエンコミュニティ出身です。現在はカンボジア王国政府において地方レベルで勤務し、ポーサット州カンディエン郡カンディエン行政区の副郡長を務めています。同時に、国家災害管理委員会（NCDM）傘下の州災害管理委員会（PCDM）に準じた組織である郡災害管理委員会（DCDM）の事務局長も兼任しています。副郡長の役割は、水資源・灌漑システム管理、農業・漁業・環境、雇用・訓練、宗教・美術、カンボジア赤十字地方支部、災害管理、治安・安全及び軍隊管理など、多岐にわたる分野を担当しています。

カンボジアにて経営学修士号を取得後、国際奨学金プログラムによりタイにて人事管理学修士号を取得しました。加えて、国内外で数多くの研修課程を修了しており、その内容は公立学校向け教授法、マネジメントとリーダーシップ、災害リスク軽減、コミュニティを主体とした防災計画管理、緊急対応とシミュレーション、プロジェクト管理、プロジェクトモニタリングと評価、プノンペンAHAセンター主催第16回ASEAN-ERAT導入コース、プノンペンARDEX-2025向けASEAN-ERATリフレッシュャーコース、ニュージーランドELTOプログラム向けレジリエンス強化研修を修了しています。

これまでのキャリア形成において、今日まで25年以上にわたり、高校教師、経営経済大学非常勤講師、サステナブル・カンボジア（国際NGO）最高経営責任者、国際救援開発機構（IRDインターナショナル）教育顧問、セーブ・ザ・チルドレン（国際NGO）の教育調整官、セーブ・ザ・



続き

チルドレン（国際NGO）の州調整官、JICAカンボジア第5号国道改良プロジェクトにおける大林組の財務・管理マネージャーを歴任しました。

地球温暖化に伴い、気候変動は長期的な解決策に向けた即時対応が求められる世界的課題の一つです。私は災害リスク軽減（DRR）の文脈に極めて関心を寄せており、これは災害影響から人々の能力を高める数ある手段の一つであり、特に洪水緊急対応については深く掘り下げたいテーマです。これは私の国の一部地域や出身県でも発生した事象だからです。2025年度客員研究員プログラムにおいて、ADRCの専門家から知識と経験を学ぶ機会を得ました。これは洪水レジリエンスに関する能力と技能を習得する上で不可欠であり、ADRCで得た教訓・知識・技能・ベストプラクティスをカンボジアのより良いコミュニティ構築に応用することで、社会に大きな好影響をもたらすでしょう。この貴重なプログラム参加の機会を賜りましたADRCならびに講師、ご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げますとともに、敬意と謝意を表します。

メイ・ヌェ・キョー・ザウ（ミャンマー）

私はミャンマー出身のメイ・ヌェ・キョー・ザウと申します。ミェイクティラ工科大学で土木工学を学びました。

現在は社会福祉省傘下の防災部に勤務しています。2016年より防災部ネピドー事務所にてスタッフオフィサーとして勤務を開始しました。当時、被災地での現地調査を実施し、被災者への人道支援を提供しました。さらに、訓練や演習、地域コミュニティや小・中・高校生、大学生を対象とした啓発プログラムなど、防災活動を実施しました。2017年には被災者の基本的ニーズと当部門が支援する物資のギャップを特定する現地評価に参加しました。この評価結果に基づき、当部門は被災者向けに追加の救援物資を提供しています。2018年にはサイクロンシェルター、多目的シェルター、学校兼用シェルターの建設工程を検査しました。2019年には本部に異動し、課長補佐として建設プロジェクト（事務所・倉庫・職員宿舎）の年間予算策定・提出、事務所建物の必要整備、建設工程検査を担当しました。

2020年に人材育成奨学計画（JDS）奨学金を得て、2022年に神戸大学大学院国際協力研究科（GSICS）で日本の災害管理システムについて学び、国際学修士（災害リスクマネジメント）を取得しました。2023年から現在まで、研修部門および建物維持管理部門でも勤務しています。

2023年のサイクロン・モカ、2024年の台風ヤギ（台風11号）による洪水、2025年のマンダレー地震という、最近の3つの大災害では、対応・復旧情報の最新データ収集・分析、国家災害管理委員会（NDMC）への情報報告、NDMC傘下12作業委員会及び関連機関・部門との連携による最新情報収集・分析を担当しました。

この2025年度ADRC客員研究員プログラムに参加することで、我が省及び所属部門の改善に寄与できると確信しております。研究成果が災害管理政策・規定の向上に活用され、地域社会の防災への参加促進につながることを期待しています。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。